

寺川委員からの提供資料

大阪市の過剰な水利権

平成14年8月5日

淀川水系流域委員会委員 寺川庄蔵
 関西のダムと水道を考える会 (代表) 野村東洋夫

1) 大阪市の水余り

大阪市は明治28年という早い時期に、他に先駆けて水道事業を開始したことや、昭和20年代、30年代の急激な人口増加に対応して、淀川水系での水資源開発に積極的に参画したことから、 $30.976\text{m}^3/\text{s}$ (日量268万 m^3) という淀川最大の水利権を確保するに至りましたが、その後、昭和40年代からのドーナツ化現象により、市内人口が郊外ベッドタウンへ移るといふ人口減少に見舞われた結果、近年は一日最大取水量も180万 m^3 前後で推移し、日量80万 m^3 以上という膨大な水利権の余剰を来たしています。

この値は、現在淀川水系に計画されている5つのダムによる開発水量の合計 (595,000 m^3 /日) をも上回るものです。

丹生ダム	大阪府	210,000 m^3 /日	
	京都府	17,000	
	阪神水道	48,000	計 280,000 m^3 /日
大戸川ダム	大阪府	35,000 m^3 /日	
	京都府	7,000	
	大津市	1,000	計 43,000 m^3 /日
川上ダム	三重県	52,000 m^3 /日	
	奈良県諸都市	26,000	
	西宮市	18,000	計 96,000 m^3 /日
余野川ダム	箕面市	10,000 m^3 /日	
	阪神水道	90,000	計 100,000 m^3 /日
安威川ダム	大阪府	76,000 m^3 /日	計 76,000 m^3 /日
		(合計)	595,000 m^3 /日

2) 大阪市の水需要予測

私達は最近、大阪市水道局に同市の水需要予測の開示を要請しましたが、明確な回答が得

られていません。大阪市が、水需要予測に関係の深い人口予測について平成2年10月以降は行っていないと回答していることからしても、同市水道局は、少なくとも一般公開出来るような新しい水需要予測を現在は持っていないものと推測されます。

3) 大阪市の人口予測

人口予測については次の2つがあります。

1、「都道府県別将来推計人口」(平成9年5月推計)

国立社会保障・人口問題研究所編

これは大阪府全域を対象にしたものですが、将来的な人口減少を予測しており、

平成12年 868万人 → 平成37年 727万人

と、25年間で141万人の減少をしています。

2、「市町村将来人口」(平成14年3月予測)

(財)日本統計協会

これは大阪市のみの予測をしていますが、ここにおいても人口は減少予想で、

平成17年 257万人 → 平成42年 218万人

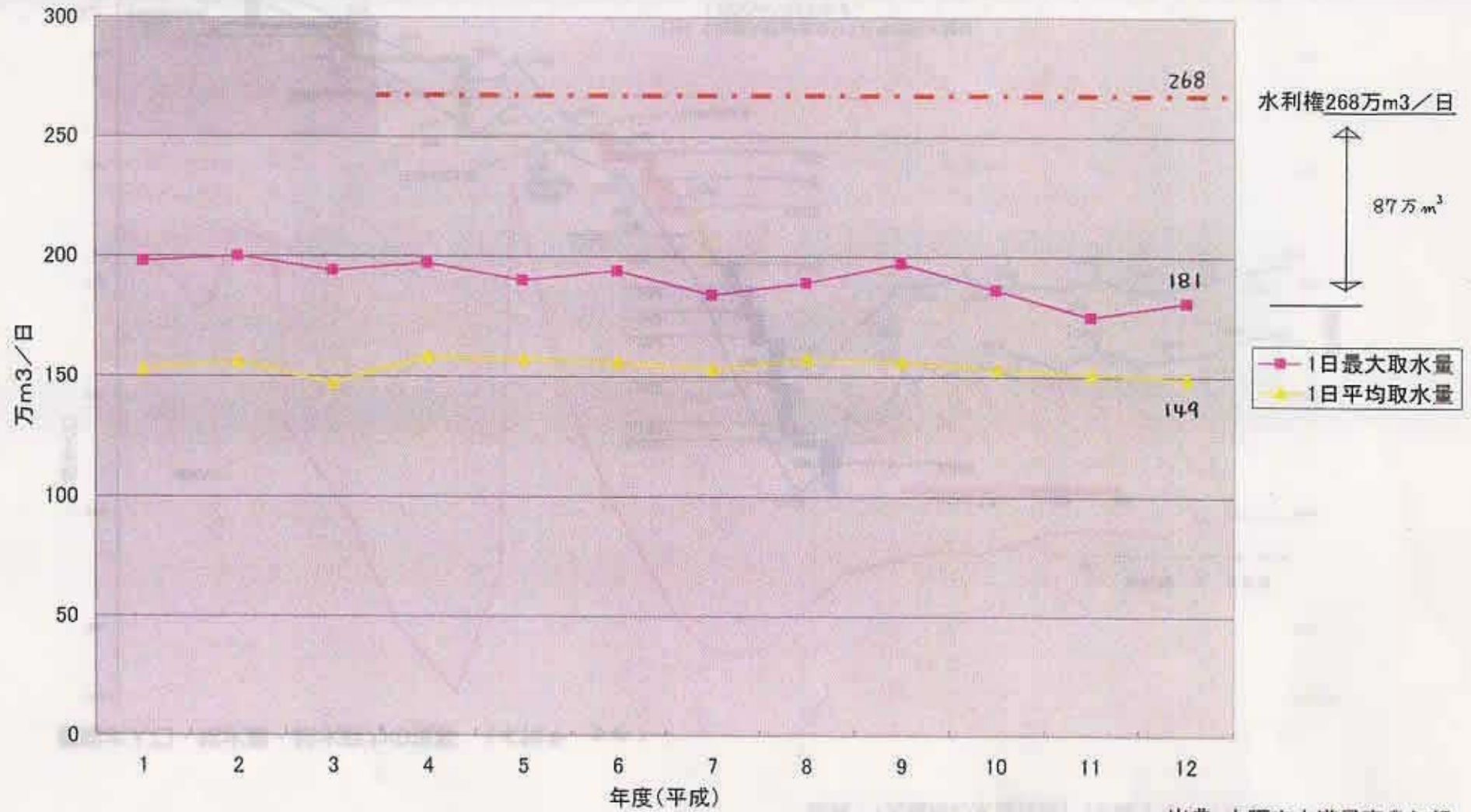
と、25年間で39万人の減少としています。

4) 水利権の余剰は今後も拡大

以上のことから、大阪市の水需要が将来的に現状より減少方向に向かうことは明らかであり、現在の水利権の大幅な余剰状況は、今後更に拡大することが予想されます。

(以上)

大阪市の水利権と取水量(上水道)



出典:大阪市水道局事業年報

出典：「大阪市の水道技術」（平成14年3月版）

■給水人口・給水量・給水能力の推移（大阪市・1日あたり）

